居られる通りに各映画会社の営業状態は最近益々順調に進んで来てあるのだ 営業は好転
日活日映等々の営業報告を見れば明らかである。
現在五分以下の配当をして居る会社は一つもないではないか 小数の映画資本家達がたらふく腹を肥やして我々数萬の映画従業員が まさに餓死線下に追いやられようとしている！。
これが不合理でなくて何が不合理だ！。

兄弟諸君！。

では我々は如何なる方法でしたならば我々の切実なる要求を貫徹することが出来るか？！。
会社の重役に嘆願したならば何とかしてくれるだろうか？！
断じて否だ もし嘆願して会社が我々の要求を入れる位いなら今までだって会社は既に適当の方法を講じて居る筈だ ところが会社側のやり口はどうだ。彼奴等は既にあちらこちらでドシドシ首切を開始して居るし又我々日活日映従三百の従業員が嘆願書を提出すると表面では『来月二日に回答するからそれまでおとなしく待って居て貰いたい』など如何にも誠意のありそうな事を言って居ながら裏面では四千名からのスキヤップ（争議が始まった場合の臨時雇）を狩り集めて我々と斗う用意をしたではないか これが資本家のやり方である
だから我々は嘆願したら我々の要求が聞き入れるだろうと言った甘い事を考へては居られないのだ！。

兄弟諸君！。

我々に残されて居る道は只一つだぞ 我々が団結して斗う以外にはないのだ
我々日活日映系三百の従業員は五月一日のメーデーを期してついに戦端を開いた 新聞紙の報道せる如く我々は 新宿の帝都座 浅草の富士館 神田の日活館に立てこもって斗うべく手筈したのである。 そして勇敢に占領したが資本家の手先警官隊の大暴圧のために大乱斗は演ぜられ ついに上記の諸館は敵のために奪はれた。だが我々三百の血盟の同志はこの位いの弾圧ではびくともしない 我々の戦略はびくとも動かず戦術の末端が少しゆらいだ丈けだ
我々は直ちに組織の確立を完成し より以上猛烈な斗争を開始して居る 我々は 我々の要求が貫徹するまで決死的に斗い抜く覚悟だ。

親愛なる全国の同志諸君！。

我々のこの斗いは決して我々だけの斗いではない もし我々が勝利を得るならばそれこそそれは全国六千名の映画従業員の勝利になるであろうし もし我々が負けるならばやがてそれは全映画従業員の頭上に来る負担となるであろう。
この意味に於て我々は百パーセントの責任を意識している、そしてそれと同時に諸君が一刻も早く我々と共に戦列に加はる事を心から熱望して居る
一人の増援隊が加はれば十人の十人の増援隊が加はれば百人の 百人の増援隊が加はれば千人の斗争力が加はるのだ

兄弟諸君！。

お互に力を合せて斗はうではないか！。さうだ！。我々は諸君のために 諸君は我々のためにガッシリ腕を組んで斗はう！。
全映画従業員六千の兄弟が奮然として起ち上ったときにこそ勝利は確実に我々のものだ！。
最后に我々は諸君の前に誓ふ
『我々三百の争議団は諸君との共同斗争に於て常に最も困難なる部署を引き受け死を以ても其の責任を果すであろう』ことを

直ちに館代会議に参加せよ！。
全映画従業員のゼネストへ！。
斗争に依って勝利へ！！。
全映画従業員の団結万才！！。

一九三二、五、二

日本労働組合総評議会
関東地方評議会
日活日映共同争議団